



# 井上道義の 未来だった今より

今はロシアにいます。ウラル地方でエカテリンブルクという人口130万人の街。石油資源が近くにあり、工業も盛んで、オーケストラの財政もロシアでも有数と言われるほど潤っている。夏は30度冬も30度（ただしマイナス）になる環境だが、今の季節は乾燥していて極楽。今回はベートーベンとショスタコーヴィチを振っている。

ひと昔前は東欧圏やアジアのオーケストラは財政状態が悪く、出演料もひどく安かった。でも、30年ほど前までは、僕も「何事も経験」と、赤字にならない限りよく行った。

ロシアのクラシック音楽の土壌は、西欧より深い部分もあり、当時の日本など目じゃなかった。学ぶことは多く、受け入れ側の人間も温かく、特にお国ものの曲では「ああこうなんだあ」と感銘し、それを自分の血肉としたものだった。でも冷戦末期は、能力

のある人間を先頭に、自由とお金がある西欧に流れ行く状況が生まれた（亡命という結果になる）。

クラシック音楽で高給が望める西欧には、日本からもたくさんの奏者が移住してきた。日本は現在、供給過剰といえるほどホールには恵まれ、楽団によっては、能力もいまや欧米の一流と見劣りしない。しかし、給料は3分の1～半分だ。まずは、オーケストラ・アンサンブル金沢が、県民からも全国民からもうらやましがられる高い給料の団体になって欲しいと思う。こう公言するに値する演奏と、日々の切磋琢磨、多忙さを続けてきたのだから。

子どもたちにも真に最先端の芸術を聴かせたい。金沢21世紀美術館と思想は同じだ。いまこそ応援していただけると信じて進みます。

（オーケストラ・アンサンブル金沢）  
音楽監督

♪  
今こそ